

鹿（のうた…

（詩：藤井貞和）

西陽子に

高橋悠治

2008

調絃

箏



間をあけて 一節ずつ切れ切れに ためらいながら

しか は あらわす、

の長さは相対的

野のうえに、す が た、

もの が たる 伝説 の し か、

み ず の い ろ の、 あ わ じ し ま か げ、

かす みへだ て て

しかは ゆく、 あそぶ 火のした、

野の火 なり、 あそびあかしの海峡や、

はるかに 崎の燃えて、過ぎゆき

ゆめさき野のしか、 たちどまる、 おかえり、 しろいかみ、

ゆめ さきのま ちをいゆけば

笹のはら 笹わけてくる かの、かのし

しかは、

うたう、 鳴くよう に聴かれ

海峡を、わたるしか 左pizz

海底に あらわれる、 しか、

な びつま の伝説の 島、 うわじらみ、 かすみのう えに

見 え かくれし つつ

つたいきて、 しか の むくろを 左 おとす底、

しまの たち に火 を みうしない

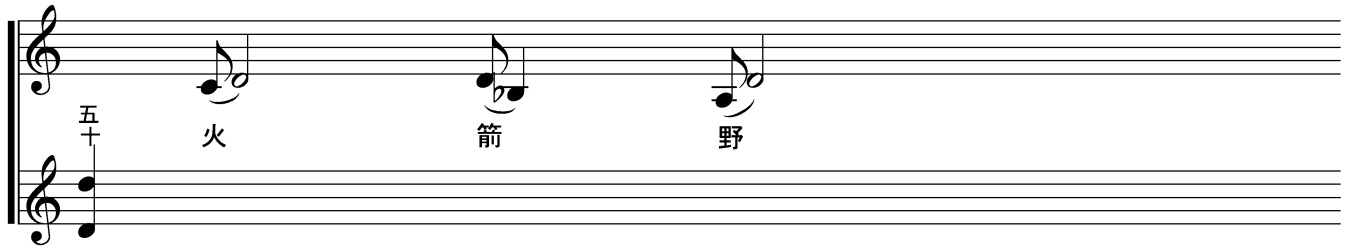
くぐる ほのおのなか、 物語る しか、

あわじのしか ゆきだおれ、

うわのことわざの、 いくつ おもえば、火をみうしない

くぐる 火のあわじのしかの、

ゆきだおれ いるを見捨てて、 こえなし、



鹿（のうた...

藤井貞和

鹿はあらわす、
野のうえに、すがた、

ものがたる伝説のしか、水のいるの、
淡路しまかげ、かすみへだてて

鹿は行く、遊ぶ火のした、

野の火なり、遊びあかしの海峡や、
はるかに崎の燃えて、過ぎゆき

ゆめさき野の鹿、
たちどまる、
お帰り、白い神、

夢前の町をい行けば、笹のはら、
笹わけてくる神（かん）の、かのしし

鹿は、
うたう、

鳴くように聴かれ

海峡を、
わたる鹿、

海底にあらわれる、
鹿、

なびつまの伝説の鳥、
うわじらみ、かすみのうえに見え隠れしつつ

つたいきて、しかのむくろをおとす底、
島のただ道（ち）に火をみうしない

くぐる炎のなか、
物語る鹿、

淡路の鹿ゆき斃（だお）れ、うわのことわざの、
いくつ思えば、火をみうしない

くぐる火の淡路の鹿の、ゆき斃れいるを見捨てて、
声なし、火箭（ひや）野